

これまでのようにもたつた相談ですが、実際にはどうすれば良いのでしょうか。最終回は、この、専門家についてお話ししたいと思います。

なぜこのようなことを最後に話しかけるかという業者がお願いして起こるトラブルがとて多いからな

一級建築士 上垣内 伸一

まずは相談先について。一番安心なのは何よりも建ててくれた工務店や設計者です。皆さんの住まいのことを一番知り尽くしているのですから、普段からコミュニケーションを取っているとスムーズだと思えます。しかし直接注文住宅を建てたのではない場合や、

### 専門家への



## 建築設計事務所は「町医者」的

関係です。お住まいの地域には、市区町村が認めた指定水道工務店が必ずありますので、この場合はそこに相談するのが安心でしょう。一方、給排水設備でもそ

## ほっとライ

# 古着や靴、バッグなど ポリオのワクチン代に

新型コロナウイルス感染症の影響で在宅時間が増えたことに伴い、衣類などの不要品の整理に取り組んでいる人も多いのではないのでしょうか。しかし、単に捨てるのはもったいないことです。古着を寄付して途上国の子ども支援やリサイクルにつなげるなど、有意義な「断捨離」の方法を探ってみました。

東京都に住む女性会社員(50)は緊急事態宣言以降、自宅にいる時間が増えたことを機に家の中の片付けに時間を割くようになりました。不要な洋服がかなりの数ありましたが、まだきれいな状態のものもあり、捨てることには抵抗があったそうです。

衣類は海外で安価に販売  
そこで知人に教えてもらったのが、「古着 de ワク



不要になった衣類などを「古着 de ワクチン」の専用袋に入れて宅配で送る

## 「断捨離」と一石二鳥

## 不要品整理して社会貢献

同サービスを使った女性は「物を減らせた上、社会貢献にもなるのでうれしい」と満足げに語ります。運営する日本リユースシステム株式会社の担当者、今野優子さんは「仕事や子育てで忙しい女性の利用が多いです。日本の服の品質は良いので、海外で喜ばれて

認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」(東京都港区)に寄付される仕組みです。残りは送料、輸出費用などに充当。衣類はインドなどに送られ、現地の女性が仕付けて安価で販売します。

同サービスの回収サービス。同サービスのサイト (https://furugidevaccine.ets.jp) へ左下のQRコードからもアクセス可。上で3300円を支払うと、専用の回収袋が自宅に送られてきます。この袋に衣類、靴、バッグなどをに入れて送り返すという簡単な手続きとなっています。代金のうち、アジアやアフリカなどで流行している病氣、ポリオのワクチン代(5人分で約100円)が、

回収、再生し  
新製品に使用  
使用済み羽毛の衣服・布団は、洗って再生させるグリーンダウンプロジェクト(三重県明和町)に提供する方法があります。羽毛は適切に手入れすれば何十年も繰り返し使えます



大手スポーツメーカーも協力  
そのほか、スポーツ用品

## 羽毛リサイクルで 障がい者就労支援

が、現状はほとんどが焼却処分。一部生産国で水鳥から何度も羽毛をむしり取る虐待行為が問題にもなっています。

同プロジェクトで回収された製品(ダウン率50%以上)から羽毛を取り出す作業は、障がい者の就労支援施設で行われています。洗浄、乾燥などの工程を経て、アパレルメーカーがコートなど新製品に使用します。

羽毛製品の寄付方法は地域によって異なりますので、同プロジェクトのホームページ (https://www.edoor.jp) へ上のQRコードからもアクセス可。確認するようにしてください。



「古着 de ワクチン」のホームページ



「グリーンダウンプロジェクト」のホームページ